

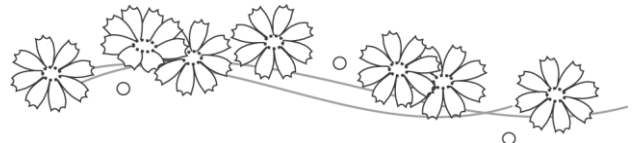


# おにぎり通信

2020年9月26日(土曜) 四ツ谷おにぎり仲間

こんにちは！私たちは毎週土曜日に、有楽町・銀座・日比谷公園・茅場町・日本橋・お茶の水・秋葉原・東京駅周辺で生活されている方々を訪問しているボランティアグループです。

今日9月26日は「台風襲来の日」と呼ばれているそうです。この日は、統計上、日本への台風襲来の回数が多い日です。1954年(昭和29年)に「洞爺丸台風」が九州・中国地方に上陸後に北海道に襲来、1958年(昭和33年)に「狩野川台風」が伊豆半島に接近、1959年(昭和34年)に「伊勢湾台風」が紀伊半島に上陸したのは全てこの日でした。そのため、「魔の9月26日」や「台風襲来の特異日」などとも呼ばれています。



福祉行動は、しばらくお休みします。

お困りの方は、おにぎりを配るときにお声がけください。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、当面の間、毎週月曜日の福祉行動は

原則としてお休みいたします。

ただし、病院や生活相談等で福祉事務所に行くことを希望される方は、おにぎりをお

渡しに伺った際に、お声がけください。毎週土曜日の訪問活動のときにお声がけい

ただいた場合のみ、次の月曜日に福祉事務所まで同行いたします。

最寄の福祉事務所

中央区福祉事務所...中央区築地14-1 中央区役所4階

千代田区福祉事務所...千代田区九段南1-2-1 千代田区役所3階

## 【バラの歴史】

そろそろ日比谷公園でも秋のバラが咲き始める季節となりました。今回は、日本におけるバラの歴史についてお話ししたいと思います。

バラ、というと西洋のイメージが強いのですが、実は日本は原種のバラが自生している国の一つです。原種のバラはアジア(中東～中国～日本)に多く見られ、そのうち中東に自生していたバラが文化と共にヨーロッパに渡り、長い間品種改良を繰り返されて、今のような鮮やかなものとなりました。

他方、日本でのバラの歴史も古いものです。例えば、奈良時代に編纂された『常陸国風土記』の茨城郡条には、「穴に住み人をおびやかす土賊の佐伯を滅ぼすために、イバラを穴に仕掛け、追い込んでイバラに身をかけさせた」という記述があり、このイバラが原種のバラと考えられています。なお、常陸国にはこの故事にちなむ茨城(うばらき)という地名があり、これが茨城県の県名の由来です。

また、中国で栽培されていたバラも早くから輸入され、平安時代には貴族の庭園を飾っていたようです。時代が下り、江戸時代となると、「コウシンバラ」「モッコウバラ」などが栽培されていた記録が残っています。

やがて明治維新を迎えると、西洋からバラも輸入されるようになりました。明治36年(1903年)に開園した日比谷公園でも、西洋化の一環としてバラをはじめとした輸入植物が植えられています。そのうち、バラが接ぎ木で増やせることから、当時優秀な接ぎ木職人のいる東京郊外の埼玉県川口市や、京阪神地域の郊外である兵庫県宝塚市などで栽培が行われるようになりました。バラは皇族、華族、高級官僚といったパトロンを得て、日本でも次第に愛好され、大正から昭和の頃には一般家庭にも普及していったそうです。



おにぎりを包んでいるラップや読み終わった通信は放置せず、ゴミ箱に入れるなど、片付けにご協力をお願いいたします。おにぎりは必ずその日のうちにお召し上がりください。また、お一人1個でお願いします。

よ や なかま れんらくさき  
四ツ谷おにぎり仲間 連絡先：080-7795-8535  
うけつけじかん まいしゅうとようびごごじごごじ  
(受付時間 毎週土曜日午後3時～午後6時)  
ちよだくこうじまち せい きょうかい  
千代田区麴町 6-5-1 聖イグナチオ教会